

## “大学都市の先行事例分析から九州大学伊都キャンパスの未来をみる”

九州大学工学部建築学科3年

山岸 将大

### 1. はじめに

2018年に箱崎地区からの移転が完了した九州大学の伊都キャンパスで私は大学生活を送っている。ただただ田と山が広がっていた田舎町に新しいキャンパスができることによって、この地域はここ数年で大きな変化を遂げた。幼稚園の頃からこの糸島に住んでいる私はキャンパスが周辺に与えた大きな変化を目の当たりにしてきた。そして今なお伊都キャンパスの周辺の環境は日に日に移り変わっていることを身をもって感じている。

さて、周囲に大きな影響力をもったこの伊都キャンパスであるが、九州大学の一生徒としてキャンパスライフを送っていると、このキャンパスは交通の便が悪すぎる、歩行圏内にスーパーなどの生活用品を売っている店がない、学生が放課後に楽しめるような場所が近くに全くないなどと様々な不満を耳にする。伊都キャンパスとその周辺地域がこれからどのように発展していくのかさらなる期待を持っている一方で、このような生活上の不満が解決される日は来るのだろうかとなんの展望もないまま過ごしていく人も多いのではないだろうか。

そこで本レポートでは伊都キャンパスと共通点を多く持つ大学都市の先行事例を分析し、その経年変化に照らし合わせることで、伊都キャンパスとその周辺地域が今後どのように展開していくのかを私なりに予測し、この地域の将来の展望を少しでも確認できる状態にしようと思う。

### 2. 伊都キャンパスについて

伊都キャンパスは、九州大学の箱崎・六本松の両キャンパスの老朽化などの理由から移転計画により2005年(平成17年)10月1日に開設された新キャンパスである。糸島半島のほぼ中央部に位置する。福岡市の都心地区から直線距離にして約16km、西区姪浜地区からは約9km、前原市の中心市街地からは約5km、志摩町の中心市街地からは約4kmの距離にあり、これらの地区に集積する商業・業務施設、宿泊施設等の利用圏域に位置する。伊都キャンパス用地の面積は約275haであり、東西約3km、南北約2.5kmにおよぶ。



### 3. 先行事例としての筑波大学筑波キャンパス

今回は、伊都キャンパスより長い年月を経ている“筑波大学筑波キャンパス”を大学都市の先行事例として分析をする。筑波大学筑波キャンパスを選択した理由は立地や周辺環境などが伊都キャンパスと共通している部分(交通の中心から少し離れた場所、かつ郊外に立地しているなど)をもっているからである。

筑波大学筑波キャンパスが立地する筑波研究学園都市は、東京等の国の試験研究機関等を計画的に移転することにより東京の過密緩和を図るとともに、高水準の研究と教育を行うための拠点を形成することを目的に国家プロジェクトとして建設され 1981年に学園都市として完成した。東京から北東に約 60 km、新東京国際空港(成田空港から)北西に約 40 キロメートルに位置する。つくば市全域を区域とする筑波研究学園都市の中の一部として筑波大学筑波キャンパスが存在する。



#### 4. 伊都キャンパス付近で今後商業は発展していくのか？

今回、本レポートでは伊都キャンパス付近で生活する学生の多くが抱えている悩みである「キャンパス付近にスーパーなど生活用品を販売する商業がほとんど存在しない」という問題点に関しての今後の展望を予測していこうと思う。

伊都キャンパスの現状として、学生が一人暮らしをするのに必要な食料品や生活用品等を購入するには最寄りの駅である九大学研都市駅付近の店や大型ショッピングモールまで出向かなければならないという状況がある。キャンパスから駅までは約 4.3km あり、バスで移動しても 15 分かかるのでキャンパス付近に住んでいる学生にとっては日常の買い出しが大きな負担となっている。

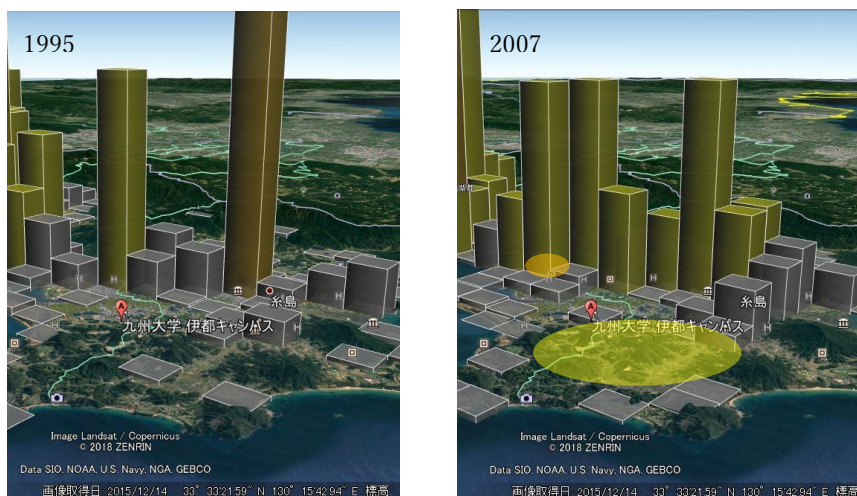


図 1. 伊都キャンパス周辺地域の小売業年間販売額



図 1 は伊都キャンパス開設前後のキャンパス周囲の小売業年間販売額を示している。開設前は比較の利用が多い駅であった周船寺駅と筑前前原駅が分布するメッシュの部分だけ高くなっていた。一方、開設後には右のオレンジの円で示している部分に新駅の九大学研都市駅が設置され、二駅に集中していた商業も鉄道のそれぞれの駅に沿って分散したことがわかる。キャンパス開設前後で鉄道沿いの環境に関しては大きな変化があったことが窺える。しかしながらキャンパス周辺のメッシュには大きな変化はなく、これはキャンパス周辺では商業施設等の設置などの大きな変化がなかったことが読み取れる。先述した通り、キャンパスが開設して 15 年が過ぎようとしている今でも学生たちは商業施設の不足に頭を抱えている。

### 5. 筑波大学筑波キャンパスの周囲の環境の経年変化

さて、伊都キャンパスにおける上記の状況が今後どのように展開していくのかを先行事例である筑波大学筑波キャンパスとその周囲環境の経年変化の分析により予測していこうと思う。

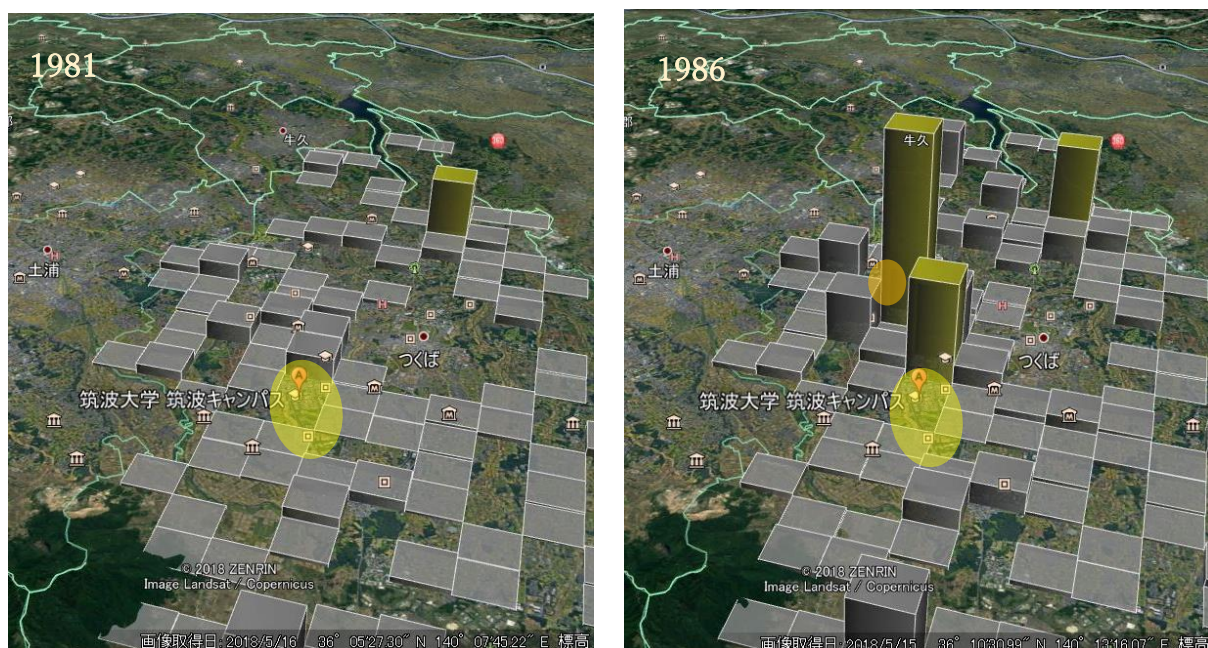


図 2. 筑波キャンパス周辺地域の小売業年間販売額(初期)

筑波キャンパスの周囲の状況は、1985 年のつくばセンター(バスターミナル)( 図 2 の右図にオレンジの円で示す)の設置を機に大きな変化を見せる。1973 年にキャンパスが設置されてから 1985 年まで周囲のメッシュは低いままであったが、交通の中心地となる場所の出現により商業が集まってきたことが窺える。

その後、約 10 年おきの変化を図 3 に示すが、以降も多少他のメッシュの増減もあるが、バスターミナルが位置するメッシュを中心に小売業年間販売額が成長している。

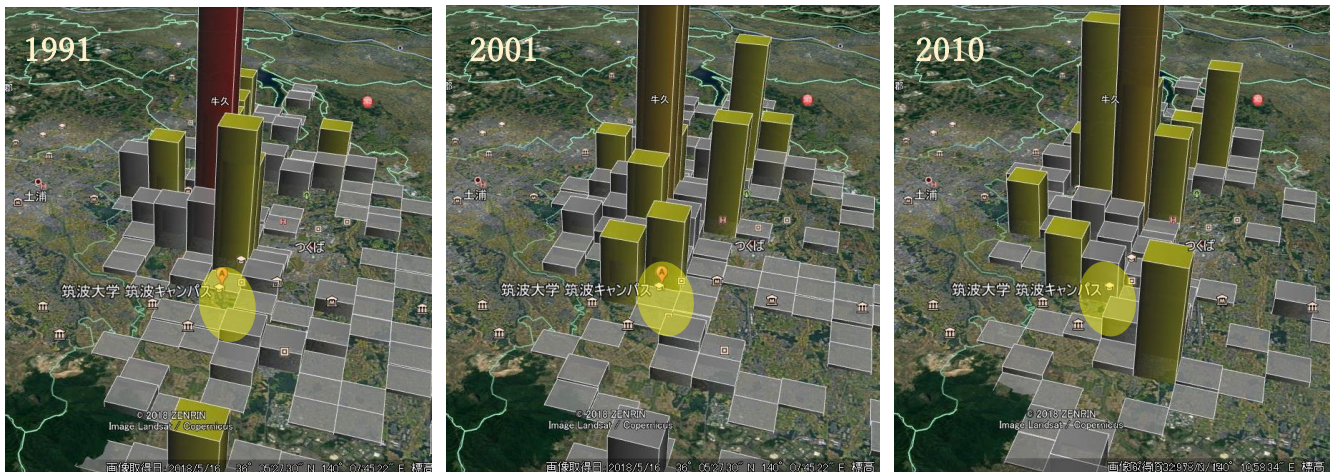


図3. 筑波キャンパス周辺地域の小売業年間販売額

また、2005年に東京-つくば間を結ぶつくばエクスプレスが開通し、エクスプレスの駅であるつくば駅がバスターミナルに並立して設置されたことにより、さらにその周辺での商業発展が広がったことが2010年の販売額から窺える。

一方で図2と図3において1981年から2010年にかけてキャンパス付近のメッシュの変化を確認すると多少の変化はあるが、継続して増加しているメッシュはなく、商業の発展は時間を重ねても伊都キャンパス周辺と同様にキャンパス付近にはなく、交通の中心となる部分に集中していることが読み取れる。

#### 6. 本分析に基づくキャンパス周辺における商業発展に関する考察

上記の分析により、商業施設等を引き寄せる力をもっているのは交通の中心(駅やバスターミナルなど)であるということを改めて実感できる。キャンパス付近ではたくさんの学生が生活しているため、学生側からみたら商業施設の需要は大きく、キャンパス周辺での商業は発展しそうにも思えるが、実際は商業施設側としては顧客が学生のみに限られるキャンパス周辺に店舗を置くよりも、交通の中心であり、市街地に通勤する人などが多く訪れる駅やバスターミナルなどの周辺に店舗を置くメリットがかなり大きいことが容易に想像できる。

この分析結果から結論づけると、残念ながら、伊都キャンパスの「キャンパス付近にスーパーなど生活用品を販売する商業がほとんど存在しない」という学生たちの悩みは今後も大きな改善は望めないと考察できる。

つまり、学生の生活圏内に十分な商業施設がある環境をつくるには、そもそもキャンパスの立地自体を主要な交通網の近くにする、もしくは既に発展している商業地域の近くに立地させるというような考慮が必要である。キャンパスを新たに設置したからといって周囲に訳もなく商業施設が設置されるという可能性はほとんどないのである。

## 7. おわりに

今回このレポートに臨むにあたって、せっかくなら自分の身近な問題について役に立つような内容にしようと思い上記のような分析を行った。分析結果自体は現在の問題が改善される見込みは少ないという残念な結論に至ってしまったが、自分自身で都市の姿や経年変化を他の都市と比較しながら将来像を考えるという作業は楽しんで行うことができた。実務の現場においても、新たな開発を行う際などには厳密さはかなり補強する必要があると思うが上記のような手順で将来像を思い描きながら計画に落とし込んでいくことがその計画の成功に繋がっていくのだなと感じた。

都市構造可視化計画など様々なデータを扱うことができるツールがこれからもどんどん発展していくと考えられるので、このようなツールをうまく使いこなしながらより良い方向に世界を引っ張っていけるような仕事をしていきたいと思う。

## 参考文献

### ○第2章

- i 九州大学 新キャンパス・マスタープラン 2001 より

<http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/archive/plan/master/pdf/chapter03.pdf>

- ii 九州大学学術研究都市の紹介 より

[http://www.opack.jp/files/MovieEvent\\_36\\_file.pdf](http://www.opack.jp/files/MovieEvent_36_file.pdf)

### ○第3章

- i つくば市ホームページより 筑波研究学研都市とは

<https://www.city.tsukuba.lg.jp/jigyosha/machinami/kenkyugakuen/1002135.html>

### ○第4章

- i 都市構造可視化計画より 福岡市、糸島市の販売額の経年変化

<https://mieruka.city/>

### ○第5章

- i 都市構造可視化計画より つくば市の販売額の経年変化

<https://mieruka.city/>